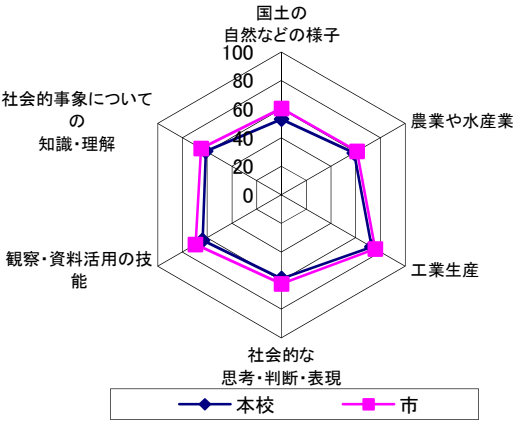


宇都宮市立新田小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	52.9	60.4
	農業や水産業	58.7	61.0
	工業生産	72.9	75.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	58.6	62.2
	観察・資料活用 of 技能	63.7	69.4
	社会的事象についての知識・理解	61.2	65.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	・宇都宮市の平均正答率と比べ、7. 5%低い。問題別に見ると、「日本の南端の島の位置」を正しく理解している児童の割合は、市の平均と比べ13. 6%低かった。「台風」についての理解はさらに低く、市の平均を18. 1%下回る48. 1%の正答率であった。	・日本の領土や領海についての意識を高め、国土の位置を再確認する。日々の授業においては、今まで以上に地図帳を積極的に活用し、地理的なものの見方や考え方ができるように指導したい。また、テレビ視聴については、アニメやバラエティばかりでなく、ニュースや気象情報も見るように、意識付けを図るようにする。
農業や水産業	・宇都宮市の平均正答率と比べ、2. 3%低い。問題別に見ると、「栽培漁業」についての理解は、市の平均よりも24. 7%上回っている。しかし、「経済水域の意味」について正しく理解している児童の割合は、市の平均と比べて13. 7%下回っていた。	・「さいばい」と答えるところは非常によくできているが、「200海里」や「水産資源」などの専門用語になると理解が極端に低くなる。教科書や資料集に、大切な言葉についての解説を活用し、難しい言葉もしっかりと理解できるように指導したい。
工業生産	・宇都宮市の平均正答率より、2. 8%低い。問題別に見ると、市の平均を若干上回っているものもあるが、「太平洋ベルト」などの工業地帯や工業地域に関する問題、グラフから工業生産の特徴を読み取る問題などで平均を下回っているものが多かった。知識理解面だけでなく、資料活用能力の面でも課題が見られる結果となった。	・工業生産の領域に限らず、写真、地図、グラフ、文章などの資料から事実を読み取る基本的技能を高めるため、白地図作業などの機会を増やし、視覚的にデータをとらえることができるように指導する。